

弘前大学人文学部ビジネスシミュレーション実習Ⅱ・Ⅲ

課題解決型学習と学生の主体的な学び

— 大学生のチャレンジ 2015 —

# 報 告 書

2016年3月

弘前大学人文学部

経済経営課程経営学コース



## はじめに

本報告書は2015年度に弘前大学人文学部経済経営課程経営学コースの学生が地域企業と取り組んだ課題解決型学習の成果をまとめたものである。

弘前大学は、2012年度から2014年度まで文部科学省 GP「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と連携し、産業界のニーズに対応した人材育成に取り組んできた。補助事業としては昨年度で終了しているが、取組は今年度も継続して行ってきた。

この授業のテーマは、「地域企業と実践する課題解決型学習による主体的な学び」であり、地域企業の抱える経営課題を素材に行う課題解決型学習を実施し、学生の主体的な学びの力を身につけることを目標とした取組を行っている。本報告書は、学生たちが取り組んだ活動の成果、そして自己の成長について報告するものである。

さて、今年度は連携企業5社と取組を行った。すなわち、① Easy Living、②弘前銘醸株式会社、③株式会社津軽金山焼、④たびすけ 合同会社西谷、⑤富士通株式会社である。このうち、前から3社(①～③)は、昨年度のビジネスシミュレーション実習Ⅰからご協力頂いており、1年半継続して学生を指導して下さった。また、④たびすけは毎年学生を受け入れてくださり、本年が3年目となる。⑤富士通との取組は、知財流通学生人材活用事業の一環として行われたもので、一般社団法人青森県発明協会とも連携しながら行った活動である。これまでの取組とは異なり、大手企業との連携となった。

また、今年度も、本活動を経験することで、学生たちのどのような力がどれだけ伸びたのか確認するために、ジェネリックスキルの測定(PROGテスト)を活動開始前(2年生時の10月)と活動終了段階(3年生時の12月)で実施した。結果は、活動開始前のリテラシー(7段階評価)は4.68、コンピテンシー(7段階評価)は2.74であったが、活動終了時にはそれぞれ5.68と3.50へと伸びていた。この数字は、決してこの活動だけの効果ではないが、この活動に関わっていない学生との比較をすると違いが見えてくる。すなわち、本活動に関わった学生のジェネリックスキルは、相対的に高くなっており、本事業での活動の成果が出ているといえるだろう。なお、この結果の詳細は、別の報告書に掲載するので、そちらを参照してほしい。

最後に、本年度も多くの取り組みを行い、成果がでてきているが、このような結果が出ているのも、地域企業のみなさまが本学の取組を理解して下さり、お忙しい中、多くの時間を割いて学生を指導して下さっている結果だと思っている。この場を借りて、感謝の意を表したい。

2016年3月3日

弘前大学人文学部

森 樹 男

# CONTENTS

はじめに ————— 弘前大学人文学部 森 樹男

---

- PART 1** オプトゥニール（連携企業：Easy Living） ——— 001
- PART 2** HIROROKU（連携企業：弘前銘醸株式会社） —— 009
- PART 3** さきおき（連携企業：株式会社津軽金山焼） —— 017
- PART 4** Chaycle（連携企業：たびすけ 合同会社西谷） — 025
- PART 5** まいてい（連携企業：富士通株式会社） ——— 033
- PART 6** Team.Adelite（連携企業：富士通株式会社） —— 041